神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO・47

● オーダーサロン・キノシタパールでは品質・サイズともに豊富に品揃えをいたしております。
ペンダント・¥105,000　リング・¥92,000　イアリング・¥115,000

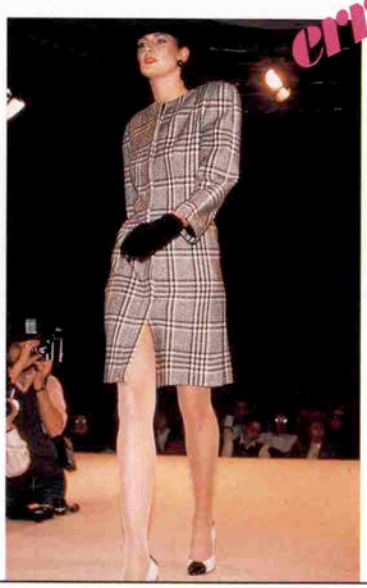
WHOLESALER & EXPORTER of Cultured Pearls

KINOSHITA PEARLS CO.,LTD.

Order Salon

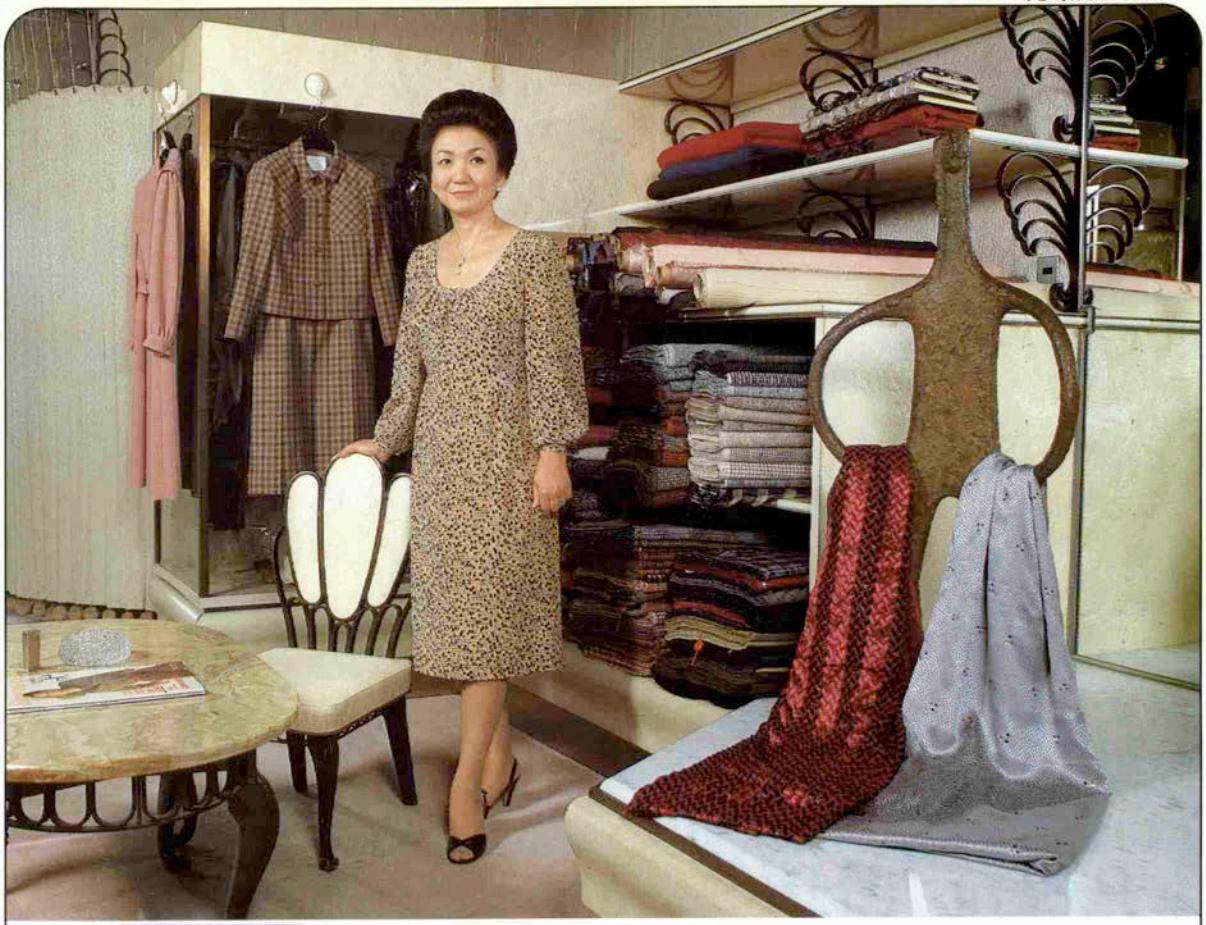
〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)
TEL (078) 221—3170
10：00a.m.～6：00p.m.　木曜日定休

ワイルド&セクシーコレクション



Sanohe

本店／元町3番街 TEL078(331)4707
ヌーベルサノヘ／元町1番街 TEL078(321)1710
トアロードサノヘ／トアロード TEL078(331)1952



いつも新しいラモードのエレガンス

Lady's Shop

La Mode

MOTOMACHI 1BAN-GAI TEL(078)331–5689

着る人
小原稚子さま
〈小原流理事・国際部長〉

Borbonese

イタリアの
トータルブランド
ボルボネーゼの
秋冬コレクションを。

もしや、その服、ボルボネーゼ。

SALON DE BOUTIQUE
Borbo

ブティックサロン・ボルボ／元町通海文堂南第一勧業銀行横 TEL. 078-332-2217
ボルボネーゼ／東京都千代田区内幸町１丁目1-1 インペリアルプラザ3F
TEL. 03-501-2551

ゴーフルの神戸風月堂がゴールドプラザビル1階にオープンいたしました。

1階フロア左側
■和洋菓子コーナー
（ゴーフル・レスポワール・ルナコウベ・和菓子）

1階フロア右側
■喫茶室
（コーヒー＆抹茶　上生菓子）

神戸 風月堂 北野坂

北野坂店　神戸市中央区加納町4丁目7番4号☎(078) 391-5050
元町本社　神戸市中央区元町通3丁目3番10号☎(078) 321-5555

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

11月号目次●1983・No.271

目次作品／田中　薫「二つに切った立方体」1982アルミミラー29×29×41.5
写真提供／大阪・現代彫刻センター

表紙／小磯良平
セカンドカバー／スケッチブックから〈59〉ヨーロッパを描く／西村　功
9　神戸っ子'83／秋澤珪子・小山竜太朗
10　こんにちはJCです
13　ある集い／須磨琴保存会
15　コウベスナップ
16　エトランゼの輪郭〈21〉西村　功
18　神戸の風色〈47〉堀内初太郎
29　わたしの意見／市野　弘之
31　随想／昇　外義／辻　荘一／井坂克二
35　ある集いその足あと／小池義人
36　詩心象〈17〉詩・安水稔和／絵・石阪春生
38　れんさいエッセイ⑥私の秘密／小原稚子
40　インタビュー／村松友視
43　地域文化論／川の復活／米花　稔
44　神戸市立博物館１周年を迎えて／井尻昌一館長
46　キャンペーン／日本文化デザイン会議'83神戸
54　KOBE　FREE　TOWN／高橋洋三・三宅　武・山西宏美
　　小山乃里子
62　さわやかインタビュー／兵庫県民生部長・深井辰三
67　経済ポケットジャーナル
68　話題のひろば①第７回井植文化賞表彰式
　　②昭和58年度神戸市文化賞贈呈式
70　元町110年座談会／芦原博之・秋澤三夫・下村光治・安達昭三・鳥越哲
74　ファッションレポート／エリザベス美容院
84　NEUE　MODE　MÄRCHEN／篠原順子
104　コウベナウ①神戸具象彫刻大賞展'83
　　②ドラマ「神戸っ子純情」
117　コーヒーブレイク
118　動物園飼育日記〈216〉／亀井一成
122　有馬歳事記〈11月〉
124　ふたたびプロフェッサーＰの研究室／岡田　淳
127　KFSニュース
129　ぴっといん
130　神戸を福祉の町に〈119〉橋本　明
132　兵庫界隈記〈31〉願成寺で上原まりの琵琶演奏
134　KOBE　MODERN　CULTURE
136　ふらっしゅ・ばっく〈37〉淀川長治
139　神戸の集いから
140　コスモ・ファンタジー／光のような孤独／佐藤晴美
146　ポケット・ジャーナル
150　神戸百店会だより
152　多田智満子・午后の対話／ゲスト・野口武彦
158　連載小説／霧の朝（３）福岡勝利／絵・辻　司
180　ナイスピープル／アナマリア・レオンハルト／臼杵百合子
182　海船港／"海のロールスロイス"サガフィヨルド号

カメラ／米田定蔵・後藤　孝・坂上正治・プレゼンツ
　　橋本英男・速水　享・中村昇治・田村　康
　　松原卓也

With a Song in my Heart

滝　えり子
LPレコード出版記念
パーティー

唄を愛し、唄と共に歩む滝えり子。
長年の夢が叶ってＬＰレコードの
出版記念パーティーを開きます。
一流フルバンドでグレンミラーを、
アルトサックス片手に岡田愛詩が、
古きよき時代のジャズを偲びつつ
グラスをかたむけ、ダンスを踊り
心ゆくまで《滝えり子》と共にす
ごす楽しいリラックスなパーティへ。

11月18日(金)
PM６:00～９:00

神戸オリエンタルホテル
＜２Ｆ大宴会場＞
TEL. 078-331-8111

お１人様　￥15,000
（フルオーケストラーの演奏によるダンスパーティー）
立食スタイル（色々なもぎ店が出店します。）
白井克治とニューソニックジャズオーケストラー
１部、３部（豪華なグレンミラーサウンドでお贈りします。）
２部　　（田中克彦トリオと鍋島直昶）
岡田愛詩（旧名岡崎広志）（アルトサックス・ボーカル）

構成・演出・司会/末広光夫
ご予約・お申込みはお早目にお願い致します。
- ご連絡先、お問い合せ：
- アルバトロス　TEL (078) 231-3300
  PM5:30～12:30
- 滝えり子事務所　TEL (078) 221-2378
  AM10:00～PM4:00

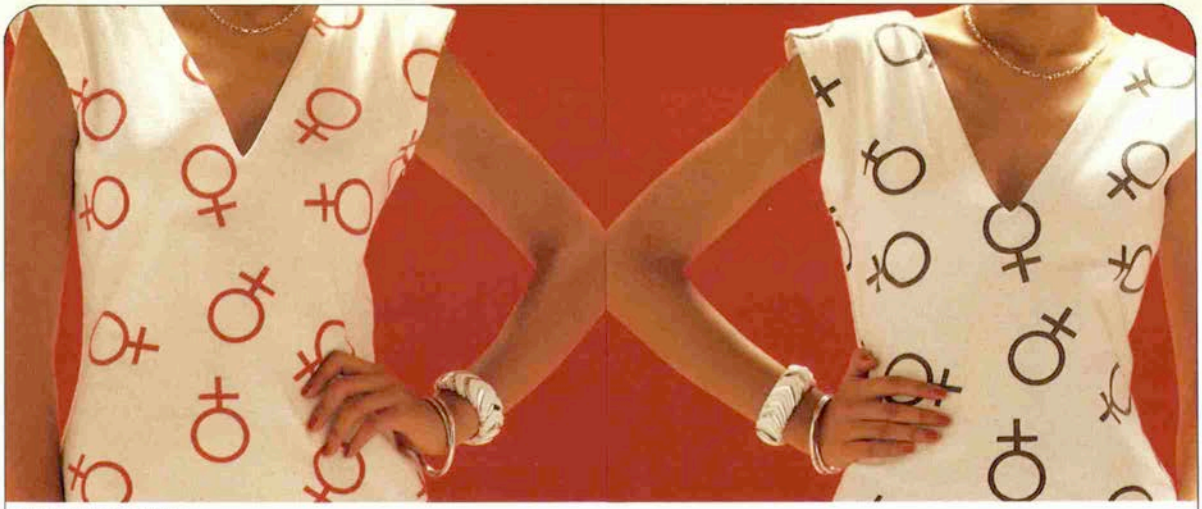


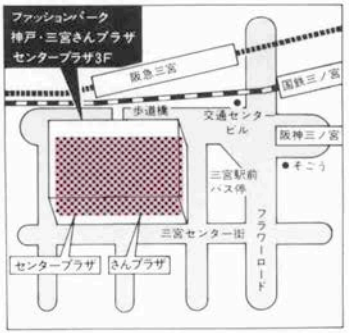
PHOTO:MAMIKO MANABE

♀たちへ。ファッションパーク

神戸・三宮さんプラザ センタープラザ③F

リザ・サロン	新宿・高野
ベンチ	BONフカヤ
Caro's	ココ山岡
VICTOIRE	ルベール
ダイアナ	ブランコ
サイズショップ・ダイアナ	ホットマン
ランプ	エタム
東京屋	三愛
CAN	営業時間/11:00〜19:00
ゲルラン	電話/078(332)1696

FASHION PARK



ismの女性アーティスト訪問②

神戸から 林 純子(トランペッター)の ism

小学校のトランペット鼓隊に入部したのがきっかけでトランペットの虜に。現在は大阪教育大附属高校で教鞭をとっている。

昨年、神戸で初のリサイタルを開き、唯一の女性プロトランペッターとしてひっぱりだこ。

「足を開き、腹筋に力を入れて吹くので、動き易くシンプルなismのブランドが気に入りました」

MAISON D'ARTISAN
ism CO.,LTD.
株式会社イズム

Head office:9-21, 4-Chome, Ninomiya-cho, Chuoku, Kobe, 651, Japan TEL078-222-3641
Marketing room: 6-18, 2-Chome Ninomiya-cho, Chuoku, Kobe, 651, Japan TEL078-222-1331

☆私の意見

文化と芸術の母体づくりを

市野　弘之
〈丹波焼延年窯、工芸作家〉

この度、はからずも神戸市文化賞受賞の栄誉に浴することができ、大きな歓びとともに、改めてその責任の重大さをひしひしと感じている次第です。

神戸には、この夏で創立10周年を迎えた「神戸芸術文化会議」があり、その中に美術部門の方々がおられ、私もその一員として活動を続けてきました。ひとことに工芸美術といっても、焼き物があり、染色があり、木工、漆工、織工など多彩な分野に分かれていて、これらのどれをとっても、一つまちがえると単なる雑器と混同されてしまう危険性を絶えず伴っているように思います。そのため、私は、工芸美術の質を向上させ、その幅と厚みをふくらませるための一層の努力が必要であると痛感しています。

たとえば、工芸美術を一つの芸術として一般の人々に広く理解してもらうための発表の場を、もっと設けることも大切な点です。私は、昨年からこれまでの個展を止めて、息子と2人で親子展を大丸で開催する一方で、工芸教室によって普及をはかることも続けております。神戸新聞のKCCのカルチャーセンターや神戸市の各区にある市民文化センターの工芸教室には学びたいという人が年々増え、六甲道の教室では100名を越える人たちが学んでいます。また、技術面でも素人ながら目をみはるものがあり、神戸市展に入賞するなど素晴らしい向上をとげています。

かといって、私はことさらに技術向上をとりざたするわけでなく、創作活動を通じて現代生活に失なわれがちな心のゆとりを享受することができればこれ以上の歓びはないと考えています。万葉集の中に「まほろば」という言葉があるそうですが、これを私なりに理解すると、「ものが育くまれるのに最も適したところ」という意味になると思います。私は、神戸が芸術文化にとって素晴らしい土壌（まほろば）となるよう、今こそその母体づくりを進めていく段階にあるのではないかと思います。

（談）

ようこそ劇場へ!! 愛と野望の果てに拡がる喝采の嵐!!

アプローズ

musical

喝采 APPLAUSE

演出・浅利慶太

市村正親

五十嵐まゆみ
(TV芸名・岡まゆみ)

沢木 順

10月28日(金)
6時30分開演

10月29日(土)
3時開演

入場料・S ￥4,500、 A ￥3,800
B ￥3,000、 C ￥2,000

主催・神戸市、神戸文化ホール
☎078(351)3535

北野からマイクロ・カオスへの誘い

実験交流サロン

シアター・ポシェット

★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常) A.M10:00～P.M8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5－1 住友銀行ビル6F
佐本小児歯科 佐本進 ☎331－6302～3

随想

「止観」ということ

昇　外義
〈画家〉

暑い夏が終った。暑さに挑むように鉛筆をすすめた茄子の写生の出来具合には、一応満足しているが、今夏も、もっとしておきたかった写生が他にもあったのにと、時の移ろいの速さに切歯を禁じ得ない。

茄子の美しさは、当然のことながら、茄子にしかない色、形が独得で、私を魅了する。

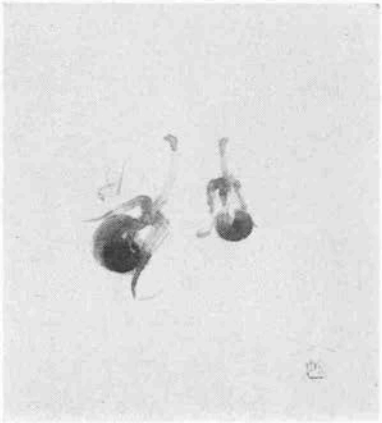
ほぼ毎年のように、夏がくると茄子の写生をしてきたが、都度、その美しさに衝たれ、新しい発見があった。

見飽きないとは、美しさに対する変らぬ感動であり、新しい発見の歓びの謂である。

それは、勿論、茄子に関してだけではない。虚心に観ると、名も知れず咲く草花にも、虫に喰われて枯れかかった一葉にも、それ自体のもつ美しさ、自然の摂理としてのあるがままの美しさがある。

私は、今、〝虚心に観る〟と書いたが、それを仏教用語で言えば「止観」ということになるに違いない。

止観とは、簡単に言えば、雑念を捨てて宇宙の真理を悟る、という意味であろうが、もとより、私は宗教家ではないので、悟りに至ることが、究極の目的ではなく、画家として、美への追求・発見・創造が、私の目ざすものである。



カット／昇　外義「茄子」

しかし、画家が体得しなければならない方法論は、仏教者が目ざす〝悟り〟への方法、即ち修業と同一であると思っている。

私には、過去、全く絵が描けなくなってしまった時期があった。一生懸命描こうとするのだが、その結果は、満足とは程遠いものでしかなく、私は、自分の画才と、存在そのものに絶望してしまった。

ある時、描こうという意志からではなく、単なる習慣から、いつものようにスケッチブックと鉛筆をもって六甲の山中に座し、絶望のあまり己れを失して山林を観ていると、何か自然の声が聴えてきた。それを、敢えて言葉で表わしてみれば、〝自然は、あるがままで正しく美しい〟ということになろうか。

私は、自然のその声に促がされて、眼前の山林を写生した。描こうとして描くのではなく、自然の声の教えてくれる通りに鉛筆を動かした。

この時の私の体験は、「止観」に通ずる境地ではなかろうか。

以後、私は、自然が教えてくれる通りに筆を動かすのだが、いつもいつも自然の声が聴けるわけではない。

その時の私は、自身気づかずに雑念、即ち、良い絵を描こうという意識によって、虚心に自然を観

ずる姿勢がくずれているのに相違ない。

改めて、画家である私にとっても、仏教者の「止観」が、根本になければならないことを思い、修業の厳しさを痛感するのである。

今夏も、時間がもっと欲しかったが、茄子の写生を通じて、自然の声を聴けたことが、せめてものというより、最大の、というべきであろうか、我が身のしあわせであった。

金の卵を生むめんどり

辻　荘一
〈神戸大学農学部助教授〉

第7回井植文化賞（科学技術部門）を受賞し光栄に思っています。それと同時に立派な業績のある多くの方が居られることを思えば、私の如きものがという感がしないでもありません。

私の研究分野は家畜の改良ですが、これは非常に困難な分野の一つです。というのも、家畜は取り木や接ぎ木でふやしたり、種子の形で保存する事が出来ない等の理由があるからです。ところが、近年、孫悟空のように自分の分身を作る、いわゆるクローン化や、精子や受精卵の凍結保存、さらには受精卵の切断や接着などの技術が進歩しました。その結果6匹の両親（6親？）を持つマウス、頭がヒツジで胴がヤギといったキメラ動物などが続々と作られています。このように家畜の改良にも技術革新の波が押し寄せています。

ところで童話には必ずといっていい程動物が顔を出しますが、私達の仕事と彼等とは全く無縁とはいえません。中でも金の卵を生むめんどりの話などはその例です。話はたしか、金の卵を生むめんどりをおじいさんが飼い、毎日卵を生むのを楽しみにしていましたが、つい欲を出し、「腹の中にはもっとたくさんの卵があるに違いない」と、めんどりを殺してしまうというものでした。

私はこの金の卵を生むめんどりが今やメルヘンの世界の占有物ではなくなりつつあると思っています。もうすでにどこかの国の科学者が研究を開始しており、その成果が明日にでも発表されないとも限らないのです。科学技術に興味のある人であれば、最近発表されたビッグマウスの事をご存知でしょう。少し専門的になりますが、マウスの肝臓のメタロチオネインという蛋白質の遺伝子とラットの成長ホルモンの遺伝子を入れ換えます。するとマウスはメタロチオネインの代わりに作られた成長ホルモンの作用で非常に大きくなり、"Bigger Mouse"となるのです。この方法をそっくり使って金の卵を生むめんどりが作れます。

卵の白味、これは主にオボアルブミンという蛋白質で出来ています。このオボアルブミンの遺伝子と、たとえば、人間の成長ホルモン（薬品として非常に高価です）の遺伝子とを取り換えると、めんどりは大量のヒト成長ホルモンを卵というカプセルに入れて、毎日毎日生んでくれます。そしてその卵はそれこそ千金に価するに違いありません。でも、仮に私がこの現代版金の卵を生むめんどりを手に入れたとしても、欲に目がくらんで、このめんどりを殺してしまう愚を犯さないことは勿論です。

童話や神話に登場するような生き物が人間の手で作り出され、身近なものとなる日はそう遠くないかも知れません。この事は私達人間にとって幸せでしょうか？　彼等を童話や神話の世界の動物としておく方が、お互い、幸せかも知れません。

レビュースピリッツ

井坂　克二
〈画家〉

レビュー大好き！
レビューを演じる人、大好き！
レビューを作る人、大好き！
レビューを観る人、大好き！
レビュー好きの自分、大好き！
いつまでも大好きな事を
大好きと言える人、大好き!!

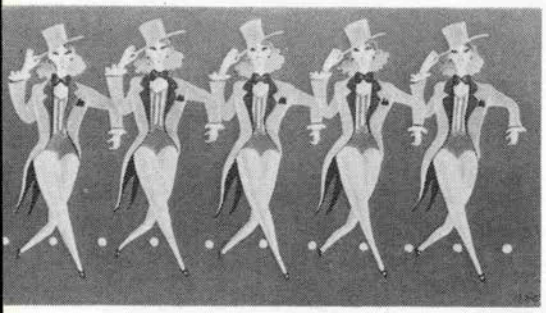
これは僕の日記「レビューダイアリー」の最初のページに記してある言葉です。あらためて読むと多少テレくさいが、レビューをテーマに絵を描いている僕のミーハーぶりが素直に出ていて、一人で気に入ってます。

ミーハーといえば、今年の四月から、一人でレビューを観に行くのはテレくさいが、みんなで行くのなら嫌いではないという分別大好きの人達に声をかけて、二、三カ月に一度のペースでレビューやショーやモダンバレエを観に行く会を催しています。名付けて「ミーハークラブ」。帰りがけに必ずビアホールかバーかレストランに寄って一時間半ぐらい談笑する。

いま観たレビューを肴に軽い食事とお酒を飲みながらワイワイやる。みんなの顔がとてもいい顔になっている。レビューで視覚と聴覚を満足させて、最後に味覚で仕上げる。快楽!!　快楽!!

味覚といえば、今年の一月に東京・原宿で「新春井坂克二ショー・気分だけはレビュー時代」展を開いた時、レビュー好きの親友で詩人であり、パフォーマンスのアーチストでもある小牧璋子さんが来て下さって、僕の絵をみながら「レビューを観る時は、どんなお酒を飲むとピッタリする?」と聞かれた。鋭い!!

その時から、その言葉が僕の頭の中から離れない。レビューと味覚。ワインを飲みながら観るレビューと日本酒を飲みながらのソレとは、観る側の気分がまるで違ってくる。当然スペクタクルの質も違ってくる。



タキシードライン

スペクタクルといえば、世の中軽薄短小の時代とか、レビューの世界にも時代の波はヒタヒタ。レビューチームも、あちこちで規模縮小の憂き目にあっています。

昔のグランドレビューの贅沢さからみれば、今のレビューは、質素。しかし装置や衣裳や人数がスペクタクルの全てではない筈。輝きのない人達の百人の群舞より、その人らしい心のスペクタクルでその人らしい光を発しているレビュースピリッツ溢れる十人のいい女の舞台の方が迫力を感じさせるワクワク、ドキドキさせてくれるキラキラのいい女や、いい男、いっぱい出てこないかなァ。

レビュースピリッツといえば、とうとう僕は神戸で個展を開く事になりました。「11月　井坂克二組公演　ザ・レビュー・スピリッツ」展。神戸・宝塚・レビュー。東京育ちでレビュー好きの僕にとって、これは聖地巡礼なのかもしれません。今からワクワクドキドキしています。中途半端なディレッタントになんかなるものか!

□井坂克二展
11月17日～22日　於たじま画廊（大丸前）

伝統のホテルで、永遠の愛を誓う

オリエンタルホテルのご結婚式

明治、大正、昭和、
神戸のロマンとノスタルジー

オリエンタルホテルには、明治から大正・昭和にかけてのロマンとノスタルジーの香りがあります。

1980年代の今日、ホテルは今や人々の新しい広場になりました。洗練された挙式は102年の歴史を誇るオリエンタルホテルにおまかせください。きっと愛の記念日として心にのこる結婚式になるでしょう。

心なごむ挙式前のお点前、雅楽流れる中での三々九度、暖かい祝福に包まれる披露宴、お慶びの中にも格調あふれるご婚礼を、経験豊かなサービスでお手伝いいたします。

留居地時代(明治15年頃)
のオリエンタルホテル

心なごむ挙式前のお点前
(裏千家)は3階お茶室で

真心とサービスで素晴しい門出を

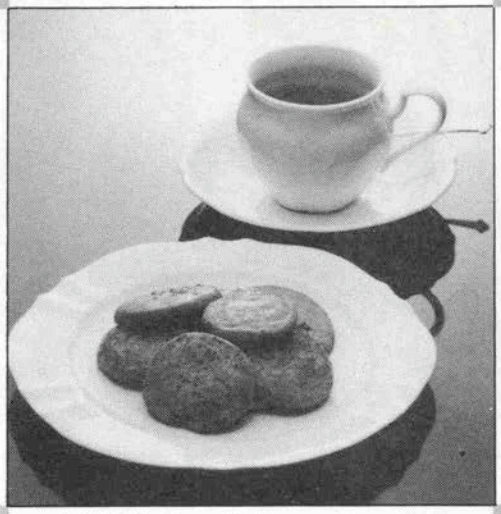
※オリエンタルホテルで挙式、ご披露宴をなされたお二人を、ご結婚一周年記念日の晩餐にご招待申しあげます。

神戸オリエンタルホテル
神戸市中央区京町25番地
TEL078(331)8111宴会課

Tucrcim's
Tür große und kleine Feinschmecker
Nahe-Frankfurt am Main
Seit 1921

HEALTH
IS
ELEGANCE

体のためになるからおいしい。



全粒粉のヘルシークッキー

パセリ・ナッツ・セサミ・サンフラワーの4種類。

ユーハイム本店でのみ発売中。

ユーハイム
本店

神戸市中央区下山手通2-1-18
TEL (078) 331-1694
営業時間 10:30A.M.~8:00P.M.

ある集い・その足あと

誰よりも須磨琴を愛す

小池　義人（須磨琴保存会会長）

須磨寺での稽古風景

「またまた、見飽きた顔ぶれが集っていますね」と私。

「会長さんは、見飽きた、見飽きたとおっしゃるけれど、ウチのダンナはいつまでも見飽きないと言ってくれますよ」

「オタクのダンナはよほど辛棒強い性分なんですなあ」

須磨琴保存会が発足してから数年間は、お稽古に集って来た会員の奥様がたと、お互いがこんな軽口を叩き合えるほど、小人数のささやかな会であった。発足以来かれこれ二十年、そのささやかだった会も今では会員数が二百名を超え、遠くはなれた東京教室をはじめ、大阪から西明石にかけて十カ所余りの教室に分かれて須磨琴の勉強をして頂いているので、会長たる私も会員の顔を見飽きるどころか、充分に覚え切れない顔がふえて来た。年に三度は本部のある須磨寺に集って、「総ざらいの会」を開いているのだが、その際にも全員が胸に名札をつけなければ識別が困難な状態になったし、会場の狭さに苦慮しなければならない状態になったのだから、発足当時に比べて、今昔の感しきりなるものがある昨今である。

それにしても、須磨琴に関しても矢張り世間は広いな、としばしば思う。このように、おかげで会員も増え、演奏を発表させて頂く機会もずいぶん多いと思うのに、神戸市内でさえも、「まだ聞いたことがない」と言う人がまだまだ沢山いるからである。実は、他の芸能グループに比べて、須磨琴が少し例外的な存在ではないかとひそかに考えているのだが、われわれは週に二、三回の割で、外部の大小の団体からお招きを頂いて演奏をご披露しているし、本部のある須磨寺には、須磨琴鑑賞を目的とするバスツアーが例年にもましてこの春には殆んど毎日のように他府県から訪れて来た。本稿を書いているこの秋にも、某交通社の企画で、毎週一回定期的に昼、夜と「名月と須磨琴」を鑑賞するバスが訪れて来ているのである。

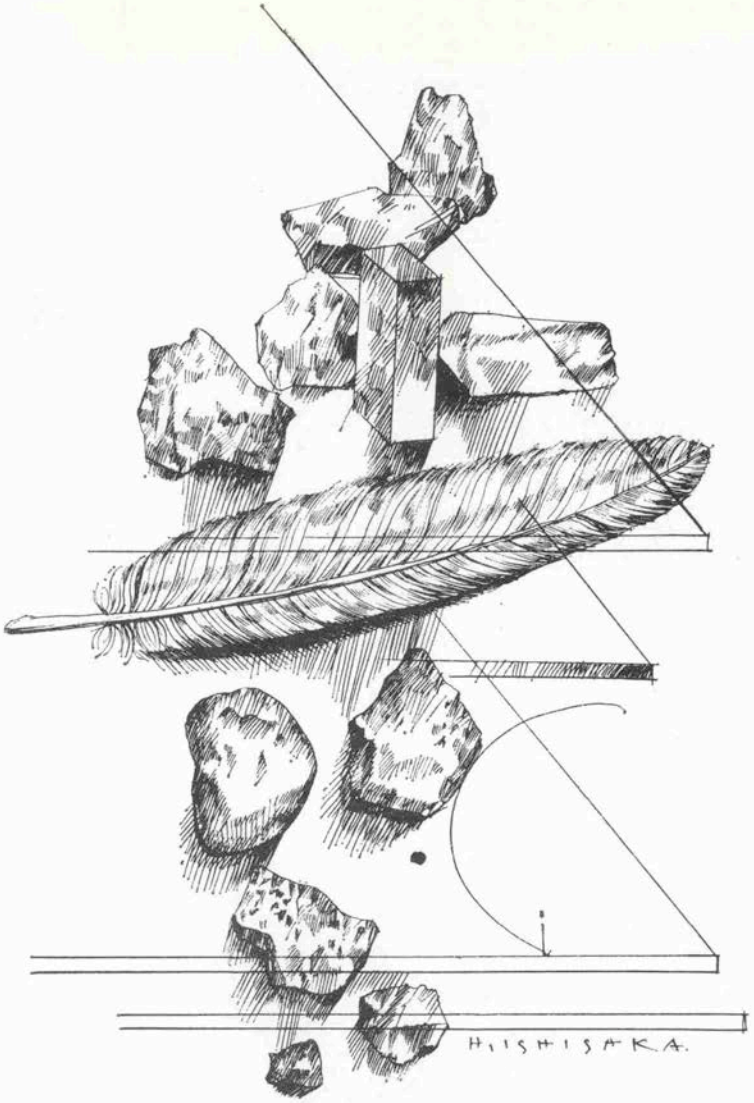
もともと私は、須磨琴が一絃である珍しさで持てはやされることだけに甘えていてはならない、と会員を戒めて来た。邦楽の一ジャンルとして認められるまでに、音楽としての質を高め、それに相応しい腕を磨かなければならないと考えているからである。今のところ、会員たちは私の願いに応えてそれなりの努力をつづけていてくれるが、それにしても世間は、どうやら私の願いとは裏腹に、須磨琴の珍しさだけを持てはやして下さっているらしい。（口コミで演奏依頼がひろがって行くところを見ると、ある程度は評価も頂いているのかも知れないのだが――）

ともあれ、現在の私は少し居直って「珍しさを持てはやされる」こともいいのではないかと思いかけている。演奏の機会が増えれば、それがわれわれ自身の腕を磨く機会にもなるし、須磨琴普及のきっかけにもなるからである。いずれにせよ、須磨琴が昔のように素朴閑雅、孤高独尊だけをより所にする時代は過ぎたのである。

■お問い合せ／須磨琴保存会・須磨区須磨寺町4―6須磨寺☎731―0416

□詩心象□

詩・安水 稔和
画・石阪 春生



にくやのにかい

中也かぶれがいた。道造狂いがいた。心平好きがいた。津村信夫はいいなあ。一穂命。元町のNという肉屋の二階に集まって。ことばことばことば。今日町で詩人さんに会ったよ。それから恋の話などあり。洋燈のまわりの円い時間。

あれから三十年。かぶれも狂いも離れ離れ。好きも命も散り散り。も一度集まろうにも肉屋の二階はもうない。今日町でといいさしてはて誰に出会ったことやら。酸色の町であいつもあいつもあいつも小首かしげているのが見える。

詩人さんとは竹中郁さんのこと、あのころ私たちは仲間うちでそう呼んでいた。津村信夫は神戸生まれの詩人。中原中也、立原道造、草野心平、吉田一穂、いずれも詩人。

●れんさいエッセイ
Wakoの神戸はKOBE〈6〉

私の秘密

小原 稚子〈小原流理事・国際部長〉

絵／上尾忠生

まだ私が中学生のころのことである。在学していた神戸女学院の新聞を編集をしていた私は、発行日が近づくと大忙しであった。なにしろ部員が少ないうえに、実動しているのが三～四名だったように思う。取材、原稿書き、校正、割付け、配布、そして経理。つまり広告取りから集金までなのだから。

そのなかでも、広告取りが一番の難事業であった。原稿を夜中までかかって書いても、印刷を頼んでいた新聞社のインク臭い一隅で女の子が校正をしていても、自分で好きでしているのだ。家人に、どこで何をしているかを伝えておけばよかった。

世の中に、頭を下げて他人にものごとを頼むのが好きだというひとはいないだろう。けれども、私は御影に住んでいたから、神戸の町にはくわしかったし近かったので、学校の帰りなどにはすすんで広告取りを引き受けていた。頼んでも頼んでも断わられた店の広告を「月刊神戸っ子」で、見ると今でも感無量である。

そのころ、元町の入口近くに、気になる新しい店ができていた。ガラス張りの〝洋服屋サン〟だ。ウインドウに飾られている見るからに上等という婦人服地を、私はいつも横目で眺めながら通っていた。

あるとき、どういうわけか、いつも広告をくれる何軒かの店に断わられた。三宮駅からセンター街をぬけて元町も端の三越辺まで歩いてUターン。「今、忙しいからまた来てくれ」「きいておきます」など耳にタコができるくらい聞いた。仕方なく、中学生には関係もなさそうな〝高級店〟に挑戦することにした。

私はためらうことなく、一度入って中を見てみ

たいと思っていたあの〝ガラス張りの店〟に入っていった。奥行きのある店の奥に、あるじらしいオバサンが坐っていた。素早く、店内や棚にぎっしりつまっている生地を眺めまわした。広告を断わられたら、もう二度とこの店に入れる口実もなくなる。けっして愛想がいいとはいえない女主人に来訪の主旨をつげた。

「いいですよ」

そっけなくそのひとは返事した。気構えていた私の方が気がぬけるほど、あっけなく広告は取れた。

そのとき、店内のマネキンの腰に、黄色に黒で鮮やかにアブストラクト調でデザインがなされたスカート地が巻きつけられていた。そんなデザインは見たことがなかった。私は立ち去り難い思いで、その生地を眺めていた。広告取りの女の子がまだ店先にいるのに気づいたそのひとは、奥から〝重い腰を上げる〟感じで出てきた。私は意を決してたずねた。

「このスカートは、おいくらですか？」

「八千円です」

「仕立て代も入ってですか？」

「はい」

安くはなかったが、思っていたほど高くもなかった。帰って母に話してダメだといわれたら、自分のお小遣いをはたいて払おうと決心した。

「今、お金を持っていないので、今度持ってきます。この生地を取っておいてください」と私。

「いつでもいいですよ。寸法を測りましょう」と女あるじ。

かくして、お互いに商売成立。同時にオバサンと中学生との間に信頼関係も成立したのでありま す。一週間余りして仮縫いに行くときは、母をつれていった。そして、母も洋服を作ってもらうことになった。それ以来、今に至るまで、このラモードさんと私たち母娘との「つき合い」は続いているのである。

誰にとっても「なくてはならないひと」というのがある。ラモードさんは、私にとってはまさに〝なくてはならない〟ひとなのだ。口で二言三言私の希望のデザインをいう。ハイハイと返事が返ってくる。仮縫いの日をきめる。着てみる。直すところなどない。三分以上仮縫いの服を着ていることはない。東京の高名なデザイナーたちがなぜ仮縫いに一時間もかかるのか不思議でならない。きっと「時間のかかることはいいことだ」と客もデザイナーも思っているに違いない。

あの広告をもらったころ、まだ三才くらいだったラモードさんの坊やは、よくお父さんの大きなゲタをはいて店の中で遊んでいた。その坊やも、もう子供さんのいるお父さんになった。けれども、ラモードさんも私もお互いに年をとったとは思わない。孫が何人もあるラモードさんと、「おじょうさん」と彼女から呼ばれ続けている中年の私とは、会えば相変らず女のオシャベリに花を咲かせている。かわったことといえば、ラモードさんが白髪かくしの毛染めをしていることと、私のウエストが大幅にかわったことくらいだ。

見かけより十センチ以上も太い私のウエストを眺めては、

「おじょうさんの秘密のサイズを公表したら、みんな信じへんでしょうねえ」

とラモードさんの嘆きは続いているのである。